

# 美幌町地域公共交通活性化協議会における地域公共交通確保維持改善事業の概要

## 事業実施の目的・必要性

美幌町は、北海道東部のオホーツク圏に位置し、恵まれた自然資源と交通結節点の立地条件に優れた地域特性に支えられているが、近年、急激な人口の減少や高齢化、運転手不足が進む中、住民の足の確保が難しくなっており、バス運行の要望が増えている状況にある。

今後も、高齢者等の交通弱者が利用しやすい公共交通の効率的運行が重要となるが、公共交通を維持するための費用負担が年々増加しており、財源確保が課題になる。

また、地域間幹線系統と地域内フィーダー系統バス路線は美幌駅前バスターミナルを中心に接続しており、市街地の生活圏域を回る市内循環線及び郊外部全体を網羅する乗合タクシー、令和4年4月から運行している申込バス「もーびー」等、持続可能な公共交通の確保・維持に向けて、利用状況などを検証しながら効果的な公共交通（デマンド型・路線型）の枠組みや生活交通ネットワークの構築に向けて検討を進め、令和4年4月11日からは路線及びダイヤ、運賃を見直し、同年12月にはさらに路線・ダイヤの見直しを行い地域も足の確保を図っている。

## 地域公共交通の現況

- |                 |  |
|-----------------|--|
| ・北海道旅客鉄道(株)     | JR石北本線(美幌駅)  |
| ・北海道北見バス(株)     | 津別線(北見～美幌～津別)<br>療育病院線(北見～美幌)<br>美幌高校線<br>(美幌療育病院～美幌<br>～美幌高校) |
| ・阿寒バス(株)        | 美幌駅循環線<br>美幌駅旭小学校線<br>登下校線(南回り・北回り)                            |
| ・美幌北海道交通ハイヤー(株) | 乗合タクシー町内6方面<br>申込バス「もーびー」                                      |
| ・混乗スクールバス       | 町内8路線  |

## 生活交通確保維持改善計画の目標

利用者のニーズや利用状況を踏まえ、公共交通の利便性の更なる向上を目指し、令和5年度の目標数値を設定した。

<目標>

- ・美幌駅循環線・旭小学校線～コロナ前と同水準に戻すため年間輸送人員30,000人以上
- ・登下校線(南回り・北回り)～美幌駅循環線・旭小学校線とあわせ年間輸送人員30,000人以上。
- ・美幌高校線 ～生徒一人当たり年間利用率(利用回数)14回以上
- ・乗合タクシー～年間輸送人員運行地区の合計1,500人以上

## 協議会開催状況

- ・令和5年6月27日  
令和5年度第1回美幌町地域公共交通活性化協議会  
令和5年度地域内フィーダー系統確保維持計画
- ・令和5年12月25日(書面開催)  
令和5年度第2回美幌町地域公共交通活性化協議会  
令和5年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価

## 令和5年度事業概要

### 【乗合型バス】

- ・美幌駅循環線(10便) 美幌駅前～美幌町役場～美幌高校 等
  - ・美幌駅旭小学校線(10便) 旭小学校～美幌町役場～美幌駅前 等
  - ※上記2路線は、R4.12月から路線・ダイヤ変更(各10便→4便へ)
  - ・登下校線(南回り)4便 美幌駅前～美幌町役場～美幌高校
  - ・登下校線(北回り)2便 美幌駅前～青葉 ～美幌高校
  - ※上記2路線は、R4.12月から運行開始
  - ・美幌高校線(通年)R4.12月～路線延長 美幌療育病院～美幌～美幌高校
- 運賃 上記全ての路線 150円/1乗車

### 【デマンド型】

- 乗合タクシー
- |         |    |          |           |
|---------|----|----------|-----------|
| ・豊岡方面   | 豊岡 | ～ 豊岡方面   | ～ J A びほろ |
| ・栄森方面   | 栄森 | ～ 栄森方面   | ～ 美幌駅     |
| ・豊幌登栄方面 | 登栄 | ～ 豊幌登栄方面 | ～ 美幌駅     |
| ・古梅方面   | 古梅 | ～ 古梅方面   | ～ 美幌駅     |
| ・日並都橋方面 | 日並 | ～ 日並都橋方面 | ～ 美幌駅     |
| ・報徳田中方面 | 田中 | ～ 報徳田中方面 | ～ 美幌駅     |
- 運賃 500円/1乗車

# 令和5年度事業の実施状況

## 1) プロセス、創意工夫

- ・市街地のバス路線について、美幌町地域公共交通計画に基づき路線を見直し、令和4年4月11日から新路線、ダイヤにより運行を開始し、更なる利便性向上を図るため、同年12月に路線・ダイヤの見直しを行った。
- ・デマンド型バス、申込バス「もーびー」の停留所を増設し、利用者の利便性向上を図った。
- ・美幌高校線は、通学の利便性を高めるため、令和4年12月に路線延長を実施し、これまでバス通学が困難だった高校生の足の確保を行った。
- ・乗合タクシーは、利用者のニーズを把握して利便性の向上に努めているが、運行区域の人口減少に伴い、利用者が減少している。

## 2) 運行系統

令和4年4月11日から  
美幌駅循環線  
美幌駅旭小学校線



## 2) 運行系統

令和4年12月1日から  
 美幌駅循環線  
 美幌駅旭小学校線



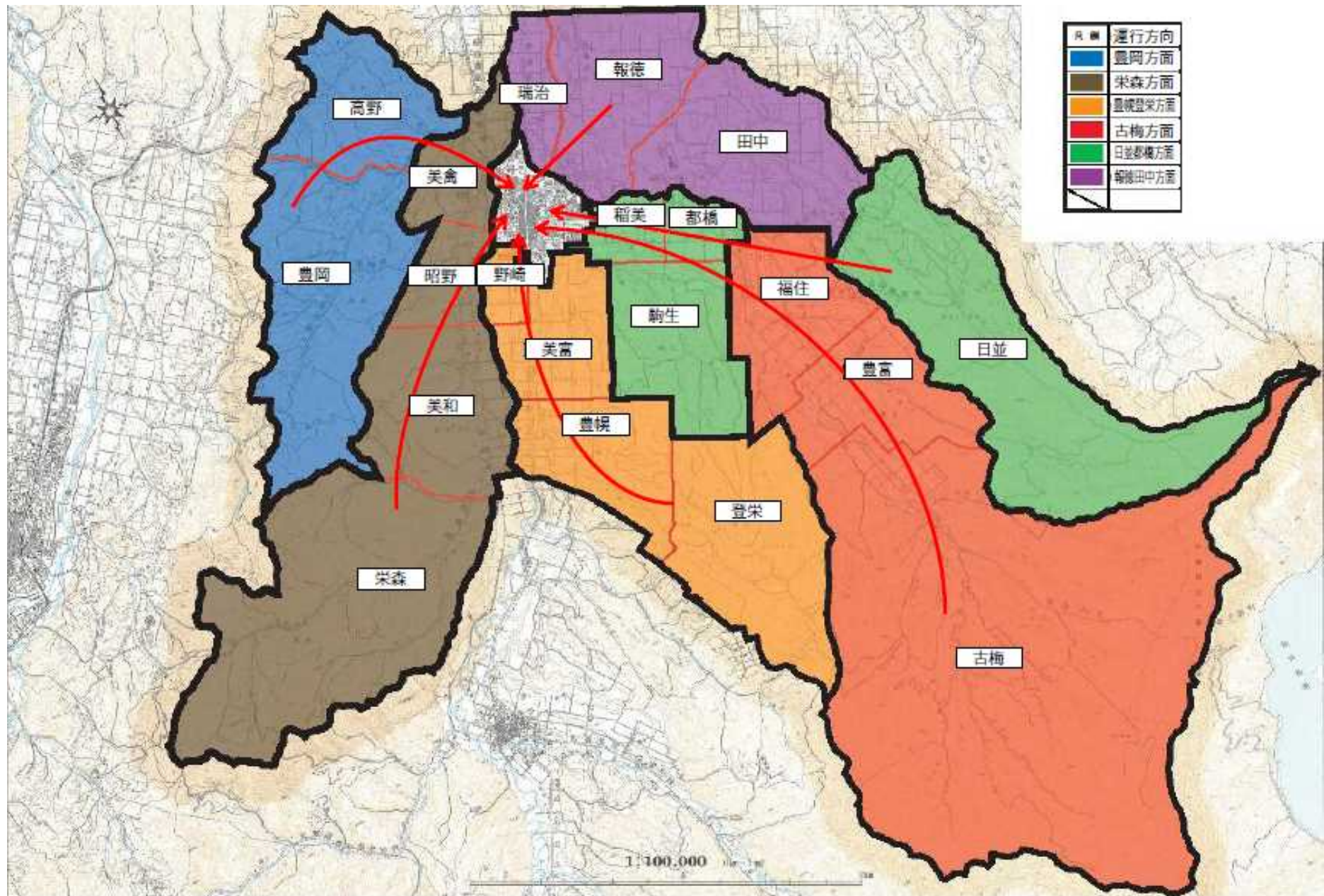
## 2) 運行系統

令和4年12月1日から  
 登下校線（南回り・北回り）  
 美幌高校線

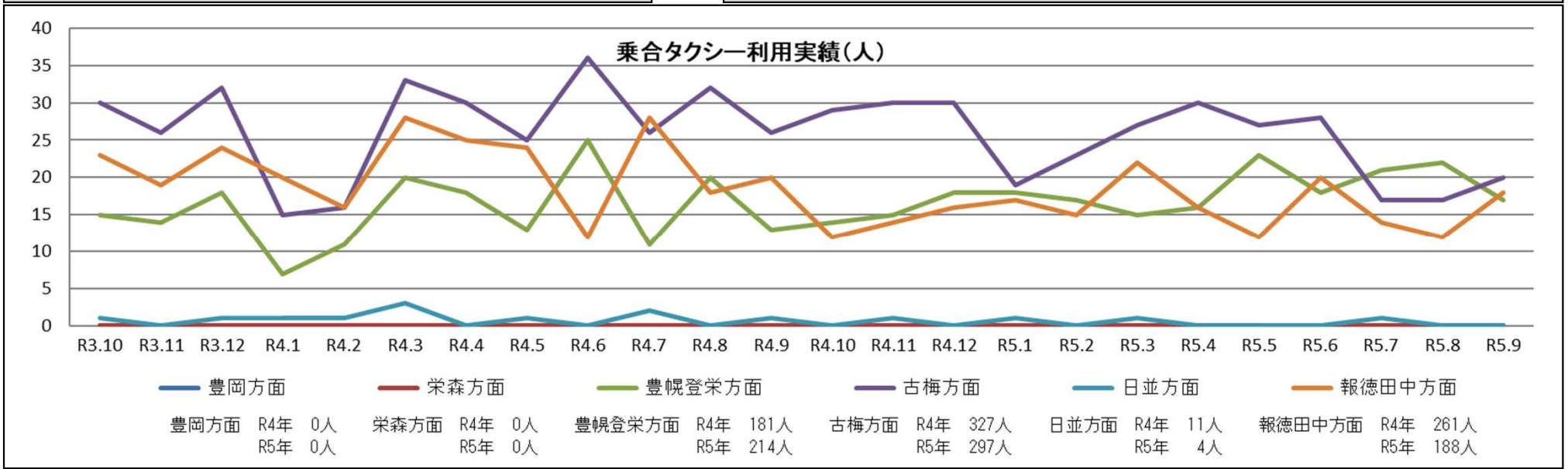
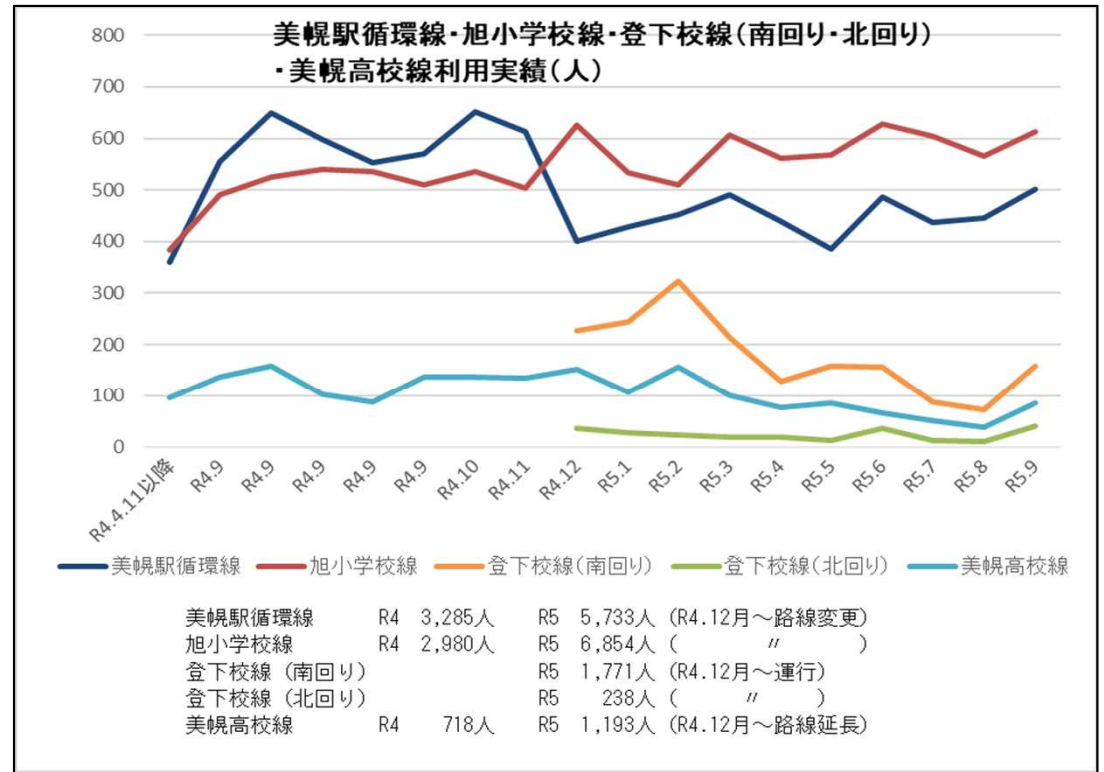
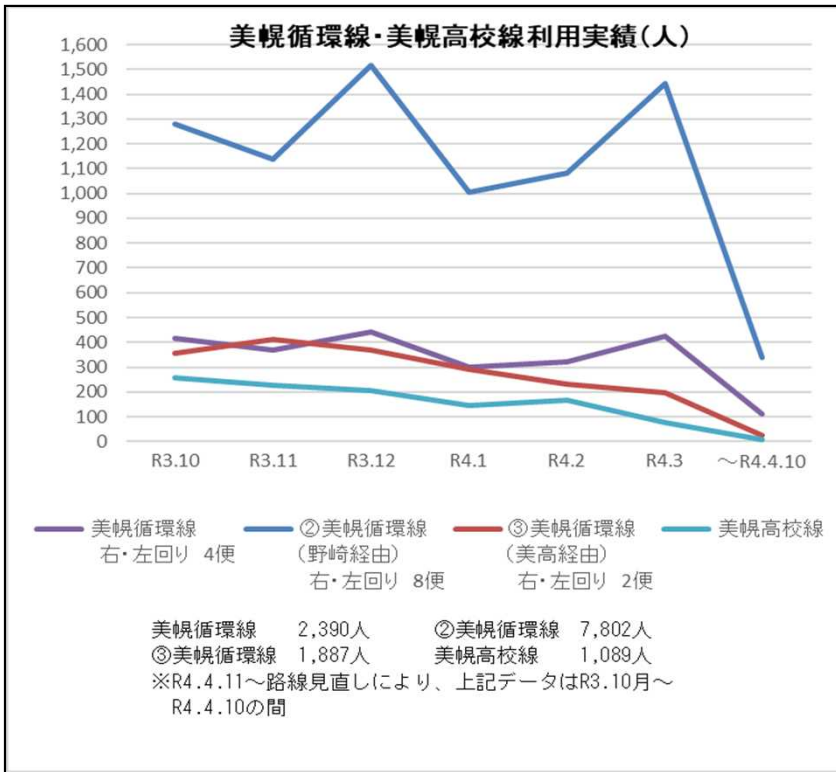


## 2) 運行系統

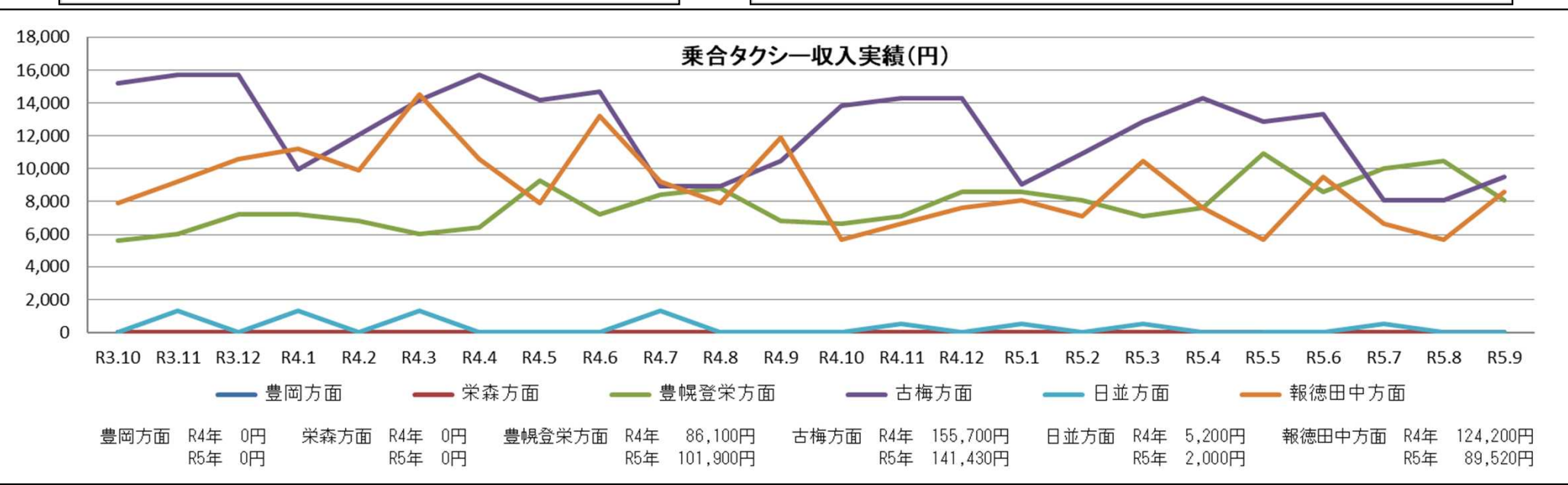
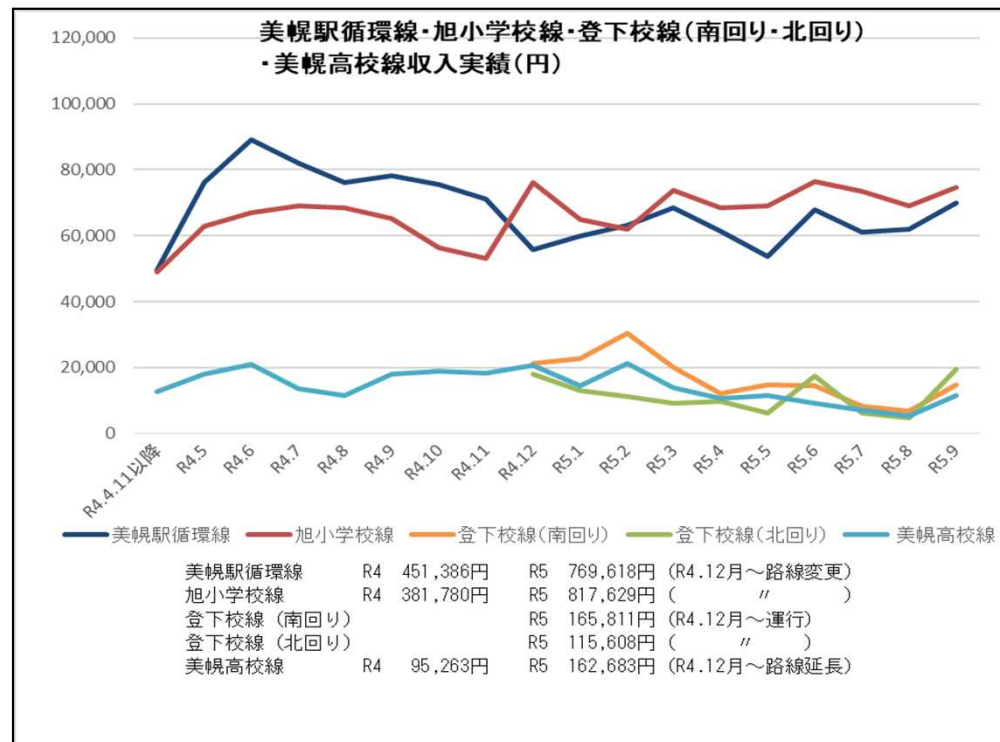
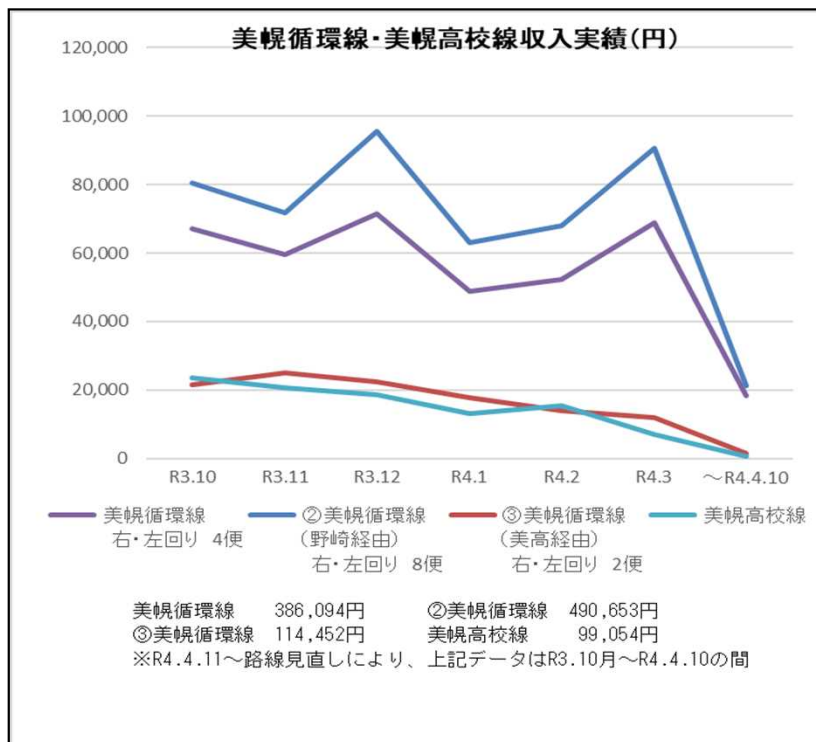
乗合タクシー



### 3) 利用実績



## 4) 収入実績



## 5) 事業実施の適切性

町内路線バス及び乗合タクシーについては、市街地や農村地区に居住する町民、特に高齢者等の交通弱者の生活の足として重要な移動手段であることから、人口減少により利用者数が減少しているが、今後においても確保維持しなければならないものであり、事業は適切である。

## 6) 目標・効果達成状況

・美幌駅循環線、旭小学校線は、利用者からの利用しやすく、分かりやすい路線バスをという声をもとにR4. 12月に路線の見直しを行い、先の2路線に加え、高校生の利便性向上のため登下校線の運行を開始したが、目標30,000人／年の輸送人員に対し14,596人／年となり、前年度比3,748人の減少、目標達成率は48.64%となった。しかし、本事業の対象路線とはなっていないものの申込バス「もーびー」については、令和4年度から路線バスとあわせ効率的な運行が可能となるよう運行を開始し、利用状況は4,664人／年となり、その後も利用者が伸びている状況となっている。それらを相対的に見ると、昨年度より若干の利用者増となった。

・美幌高校線は、R4. 12月から路線を延長し、これまではバスでの登下校が困難であった地区に居住する生徒の利便性の向上を図り、目標を生徒1人当たり年間利用率14回としたが、7.4回となり、年間輸送人員も1,193人と減少した。

・乗合タクシーは、目標1,500人／年の輸送人員に対して703人／年となり、前年度比77人の減少となった。人口減少に伴い、農村地区の人口も減少していることから全体的に利用者が減少しており、利用がなかった2方面、豊岡方面・栄森方面においては地域の住民減少し、利用者が少ないこと、豊岡方面においては混乗スクールバスが運行していることもあり利用実績がなく、栄森方面については、利用対象者が減少しており、利用実績がなかった。また、日並方面についても、計画運行回数を大幅に下回る運行回数となった。

## 7) 事業の今後の改善点

・美幌駅循環線、旭小学校線においては、R4. 12月に路線の見直しを行い運行を開始したが、利用者数が伸びていない状況にある。また、12月の路線見直しに合わせ、高校生の利便性を図るために運行を開始した登下校線についても、便によっては利用者が少ないことからダイヤの見直しを検討する。

デマンドバスとの役割分担も図りつつ、町全体の利用者のニーズに寄り添えるよう検討を行い、利用促進を図る。

・美幌高校線は、美幌高校の生徒数が年々減少しており、利用者数も減少しているが、R4. 12月から路線延長により利便性を図った。今後は登下校線のダイヤと合わせた検討を行い、高校生の利用促進に努めたい。

・乗合タクシーは、農村地区の利用者のニーズを把握し、現行事業を基本とした中で、運行時刻の見直し等を行い、利用促進を図る。

## 8) 地方運輸局における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・設定した目標はいずれも達成することができなかったが、今後も地域公共交通計画に基づき、目標達成に向けた更なる利用促進の取組を期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、公的負担額といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。